



加清純子遺影

zyunko. kasei

特別展

よみがえれ! とこしえの加清純子

—『阿寒に果つ』ヒロインの未完の青春—

2019年 4月13日(土)～5月31日(金)

月曜休館 ただし4月29日、5月6日(月・祝)は開館し、5月7日(火)、8(水)は休館
午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

観覧料:一般700(560)円 高大生450(360)円 小中生300(240)円
65歳以上の方450(360)円 ()内は10名以上の団体料金

学校の教育活動の一環として観覧する小中高生及びこれに準ずる方と引率教員、
心身に障がいのある方と引率者、生活保護を受けている方は無料となります。

主催:北海道立文学館、公益財団法人北海道文学館(北海道立文学館指定管理者)、北海道新聞社
後援:北海道、札幌市、札幌市教育委員会

背景作品:加清純子『阿寒湖風景』1952年(部分、加工)

中島公園内

北海道立文学館 特別展示室

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1番4号
TEL:011-511-7655 <http://www.h-bungaku.or.jp/>
施設設置者:北海道教育委員会 指定管理者:公益財団法人北海道文学館



加清純子 (ほうづきと日記) 1948年



加清純子 (瞬間)



加清純子 (阿寒湖風景) 1952年 (絶筆)

傾けます。

昨年、実弟の暮尾淳氏に遺族によって加清純子の絵画15点が奇跡的に保管されていたことが判明しました。本展はこれらの作品を含め、美術と文学にわたる天才少女画家の魅力あふれる表現世界を一堂に紹介する初の試みです。生き急いだ日々の光と影がたゆたうように、止むことのない青春の鼓動に耳を傾けます。

教育者の家庭に生まれ、中学生の頃から父親の児童雑誌「ひばり」にマンガを描き才能の片鱗をみせていました。第23回道展に15歳で入選、早熟な芸術家の道を歩み出します。札幌女子高校から学制改革で札幌南高校2年生に編入されると、同期生にはのちに作家となる荒巻義雄、渡辺淳一などがおり、彼らとの青春の日々が始まります。美術では前衛画家・菊地又男の指導を受け全道展、アンデパンダン女流画家協会展、自由美術協会展に出品、さらには個展を開催するなど活躍しました。文学では櫻村幹夫、岡村春彦らと同人誌「青銅文学」の創刊に参加、表紙カットや挿絵を担当したほか、いくつもの小説や詩を執筆し、その感受性豊かで鮮烈な物語世界は大人たちを驚かせました。

しかし、1952年1月、赤いカーネーションを残して失踪、4月に阿寒山中で遺体となって発見されました。享年18。遭難死とも自殺とも言われていますが、真相は明らかではありません。



加清純子 渡辺淳一(右)と

渡辺淳一の『阿寒に果つ』(初版1973年)のヒロイン時任純子のモデルとして知られる加清純子(1933〜52年)は第二次大戦後の日本社会の反権威世代(アブレゲール)で、デカダンでアヴァンギャルドに時代を駆け抜けた天才少女画家です。

よみがえれ! とこしえの加清純子 —『阿寒に果つ』ヒロインの未完の青春—

関連イベント

●記念講演会1「姉・加清純子の思い出」

4月13日(土) 10:30~11:30 当館講堂 無料
講師: 暮尾淳(詩人、加清純子実弟)
*要申込: 3月29日(金) 9:00より電話で 先着80名

●記念講演会2 「同級生・加清純子—とこしえの芸術少女の魅力」

5月12日(日) 14:00~15:00 当館講堂 無料
講師: 荒巻義雄(SF作家)
*要申込: 4月26日(金) 9:00より電話で 先着80名

●展覧会企画者トーク 「走れ! 加清純子—昭和20年代の青春」

5月19日(日) 14:00~15:00 当館講堂 無料
講師: 谷口孝男(当財団理事、コラムニスト)
*要申込: 4月26日(金) 9:00より電話で 先着80名

●ひとひら忌 渡辺淳一追想音楽会

4月30日(火) 16:00~17:00
当館地階ロビー(喫茶・休憩スペース) 無料
出演: 渡部大三郎(元札幌クラリネット)
大平まゆみ(札幌コンサートマスター)
佐藤郁子(札幌ヴァイオリン)
青木晃一(札幌副首席ヴィオラ)
坪田亮(札幌チェロ)
曲目: モーツァルト: クラリネット五重奏曲 K.581
ガーシュイン: サマータイム ほか
*当日先着60席。開演および準備中は大きな音が響きます。あらかじめご了承ください。

●上映会1「橋本奈々未の恋する文学—冬の旅 渡辺淳一『阿寒に果つ』」

制作: UHB北海道文化放送 2016年
5月2日(木) 14:00~15:00 当館講堂 無料
解説: 後藤一也(UHB北海道文化放送編成制作局制作部副部長)
*応募制: 往復はがきにて 定員80名

応募方法: 往復はがきに上映作品名、氏名、住所、電話番号を記入して、4月18日(木)までに(当日消印有効)に当館までお送りください。1枚のはがきで2名様まで応募可。(その際は、2名分の氏名をお書きください。)
定員を超えた場合は抽選とし、結果を返信はがきにて郵送します。

●上映会2 「もうひとつの『阿寒に果つ』- 氷の自画像をたずねて」

制作: HBC北海道放送 1996年
5月4日(土・祝) ①11:00~12:00 ②14:00~15:00 (同内容で2回)
当館講堂 無料 *応募制: 往復はがきにて 定員80名
応募方法: 締切等は上映会1(上記)と同じ。希望時間(①か②)もお書きください。定員を超えた場合は抽選とし、結果を返信はがきにて郵送します。

●朗読会「加清純子をめぐって」

1 渡辺淳一「阿寒に果つ」 5月22日(水)
朗読: 朗読ユニット ふたりしずか(熊谷百合子、杉浦貴子)
2 加清純子「無筆の画家」、加清蘭「北風の街」ほか 5月23日(木)
朗読: 鈴木栄子、上埜きみ子、五島由
いずれも13:30~ 約1時間30分 当館講堂 無料
*要申込: 5月1日(水・祝) 9:00より電話で 先着80名

●ギャラリーツアー

4月20日(土)、21日(日)、5月18日(土) いずれも14:00~ 約40分
特別展示室 ご案内: 本展担当芸員
*入場券をお求めの上、展示室入口へ。(先着10名程度)



渡辺淳一『阿寒に果つ』恋愛小説セレクション2 集英社 2016年



『青銅文学』16号 1952年11月



大野五郎(ジュン)1950年

●常設展のご案内/北海道の文学(通年開催)

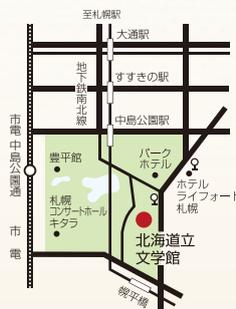
北の大地に育まれてきた北海道の文学。自筆原稿や初版本など貴重な資料を展示。
観覧料: 一般500(400)円、高大生250(200)円 ()内には10名以上の団体料金
65歳以上、中学生以下無料。高校生は土曜日無料。*詳細はお問い合わせください。

*常設展文学館アーカイブ「三浦清宏—その遙かなる文学の道」

4月20日(土)~6月23日(日) 常設展示室内
室蘭出身の芥川賞作家・三浦清宏(1930~)の作品をご紹介します。

●次回特別展

「歌川広重 ふたつの東海道五拾三次」 6月8日(土)~8月18日(日)
広重の名作をふたつの異版をくらべながら前期・後期の入替で紹介いたします。



北海道立文学館

〒064-0931 札幌市中央区中島公園1-4

【交通案内】○地下鉄南北線「中島公園」駅(出口③)または「幌平橋」駅(出口①)より徒歩6分 ○市電「中島公園通」停留所より徒歩10分 ○JRバス・中央バス「中島公園入口」より徒歩4分

【お問い合わせ】TEL:011-511-7655
http://www.h-bungaku.or.jp/

施設設置者: 北海道教育委員会
指定管理者: 公益財団法人北海道文学館

フェイスブック、
ツイッターでも
情報発信中!